

2019 年度 学校評価(自己評価)

2019 年度は、学校目標として次を設定した。

- 国際交流活動の充実（グローバル化推進）
- ライフ・デザインとしての進路・進学構想機会と高大接続の充実
- 自ら学び、学びを進め深める学習環境の整備

以下、それぞれの項目についてその遂行状況を概観する。

- 国際交流活動の充実（グローバル化推進）
初級向きシアトル語学研修を開発し実施した。フランスのロクロワ高校と国際交流協定を締結し、新規協定校開拓に成功した。1 年留学期間を含む 3 年卒業制度利用による年間留学生が 2018 年度比倍増し、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があったとはいえ、海外派遣総数は約 70 名となり、長短受け入れ海外高校生約 200 名と合わせ、充実した国際交流活動が展開できた。
- ライフ・デザインとしての進路・進学構想機会と高大接続の充実
2017 年から実施の OB 研究者によるライフ・デザイン講演会、OB による進路講演会などに加え、「法学部への招待」「理工三学部への招待」を学部と連携して初めて企画・実施した。全学部による「学部 WEEK」を 2018 年度に引き続き実施した。
- 自ら学び、学びを進め深める学習環境の整備
シラバスとカリキュラムのマネジメントを進め、ネイティブによる「英語応用」の授業開始とテキストの発行、クラス分割によるアカデミック・プレゼンテーションに取り組む新規英語授業を始め、授業発表としての英語プレゼンテーションを学校行事の中で実施した。同窓会学術研究奨励金が拡充され、その支援に応じて研究意欲が高揚して研究活動が活発に行われ、高校生で最高レベルといわれる学生科学賞東京都大会で最優秀賞を受賞することができた。

以上

2019年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

今後の高等学院および高等学院中学部の教育をより良くするため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度から引き続き8回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

学校全体の取り組みについて

- 1．高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- 2．高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている
- 3．高等学院は国際交流の推進に努めている

学習指導について

- 1．指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- 2．生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- 3．生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- 4．適切な評価が行われている

生徒指導について

- 1．組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- 2．組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- 3．組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- 4．組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
（生徒は高校のみ）

クラブ活動について

- 1．生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- 2．部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- 3．部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- 1．私は授業に積極的に取り組んでいる
- 2．私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- 3．私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

学校全体の取り組みについて

質問項目1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で58.1%（昨年度59.6%・一昨年度56.6%）、生徒全体で50.3%（昨年度38.3%・一昨年度38.0%）が「そう思う」と回答している。また生徒全体では、「ややそう思う」の評価を加味すると、90.3%（昨年度73.8%・一昨年度74.5%）が肯定的な回答をしたことになる。特に生徒からの回答で、評価している割合は昨年度・一昨年度から大きく増えている、これは「生徒の自主性・自立性の育成」という本校の目指す教育理念が、これまで以上に深く浸透し、特に生徒たち自身が実際に自主性・自立性を持ち始めていると言えるだろう。

質問項目2. 「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」生徒全体では「そう思う」が43.9%と最も多く、「ややそう思う」（40.6%）と合わせると84.5%が肯定的な回答となり、昨年・一昨年と比較して大きく評価が上がった。また、保護者全体では「ややそう思う」が41.2%と最も高く、昨年までと同様に肯定的な回答が高くなっており、中高大連携の実践についての取り組みが生徒・保護者ともに理解され浸透している。

質問項目3. 「国際交流の推進に努めている」では、保護者全体では「そう思う」「ややそう思う」を合わせて82.3%、生徒全体でも「そう思う」「ややそう思う」を合わせて88.6%となった。スーパーグローバルスクール（SGH）が昨年度終了した後の今年度、昨年よりさらに肯定的な回答が増えており、8割以上の保護者・生徒に国際交流を推進している高等学院の取り組みが、引き続き評価されていることがわかる。

学習指導について

質問項目1. 「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、昨年と同様、保護者・生徒とも「ややそう思う」が最も高く（保護者44.7%、生徒40.2%）、「そう思う」と合わせると、保護者72.7%、生徒72.0%となっている。保護者・生徒ともに、7割以上が肯定的な回答となったが、今後とも授業の質の向上に努めていく必要がある。

質問項目2. 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目3. 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価については、生徒全体では「ややそう思う」が最も高く（項目2.37.0%、項目3.34.3%）なった。昨年度より生徒の評価がよくなっているものの、今後も各教員による授業の質の向上のより一層の努力が必要となる。

質問項目4. 「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている（生徒全体43.2%、保護者全体46.6%）。普段の授業における評価が進級・進学の際に非常に重要となる本校では、「そう思う」という評価が最も高く

なるよう、今後も改善に努めなければならない。

生徒指導について

1～4全ての項目において「そう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、これまでと同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との信頼関係が良好の状態が保たれており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組まれていることが、この結果からわかるだろう。

今年度は、例年行っている学部説明会やモデル講義、本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等に加え、法学部への招待の実施や、学部ウィークなどの取り組みを通して学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えていることで、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている生徒たちへ早い段階から意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。今後もこのような機会を設定・拡充し、生徒が適切な進路決定へ結びつけるよう努めていきたい。

クラブ活動について

質問項目1「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」について、保護者全体・生徒全体ともに「そう思う」が最も多く（保護者全体 36.2%、生徒全体 37.4%）なり、生徒全体で評価が高くなった。

また、質問項目2「部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている」については、保護者・生徒の方をともに、全体で「そう思う」が最も多かった（保護者 32.9%、生徒 31.7%）。生徒・保護者ともに否定的な意見は少ないものの、今後も部長（顧問）と生徒との間のコミュニケーションの重要性をしっかりと認識する必要がある。

高校生への質問項目3「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は、高校全体で「そう思う」が最も高い評価となっている。一方、保護者の方では全体で「ややそう思う」が最も高い結果となっており（29.3%）、「そう思う」（27.6%）と合わせると56.9%と昨年より割合が若干増えたものの、ほぼ同じ評価になっている（昨年度 49.6%）。今後も部長（顧問）と生徒・保護者との連携を密にする努力を続けていくことが重要となる。クラブ活動への参加率はかなり高い本校において、高校生活におけるクラブ活動の意義は非常に大きく、安全面の配慮に十分注意しながら、部長と生徒・保護者との良好な関係を保つことで、生徒にとって有意義な活動になるよう努力を続ける必要がある。

以上